



銀賞 ● 提案部門

## エナジーチューブ

地下駅を都市エナジーの体感の場にする

森 徹・植野 糾・若松久男・平田倫巳・村越建男・佐藤里香・戸部智一郎 (KAJIMA DESIGN)

コンペに参加した仲間達とは、廃駅に向う  
 或る地下駅を保存し電車の通るホームごと  
 美術館として再生するMinM(ミュージア  
 ム・イン・メトロ)というボランティア活動  
 を3年程続けています。地下駅の闇の空間  
 は乗り入れる電車の光と音に満たされる都  
 市的な場です。ガラスブロックは、そうし  
 たエナジーを取り入れながら安全と快適さ  
 を確保できる可能性に満ちた素材だと思っ  
 ます。

(森 徹)

地下駅が駅で乗車し乗り入れる時、それは新時代の都市文明と技術のシンボルであった。  
 人々は乗車し、列をなしてこの駅交差を通過した。

以前、吾等が日本の地下鉄駅に降り立つ時、その空間はそれに見合っ  
 た温かみを感じたであろう。 豪華な仕立、安全な作り、清潔な印象は及ぶが、それは本物の  
 駅か、 駅の中に居る実感を感ぜられる空間と異なるであろう。

私達はここに、地下鉄が本来持っている、 都市の精神的な魅力と体感できる空間を再現してみたい。  
 結果は、ホームドアのついたガラスブロックのチューブで覆われ、 風や土砂が駅の中に入ら  
 なくなる。 チューブの中に設置された照明は電車の灯りと共に駅交差を巨大な照明器具のように  
 照らし出す。

ガラスブロックのフィルターによって、騒音は温度の調節に、 危険は安全に、 暑気は涼気は  
 都市エネルギーの体感に変わる。

エナジーチューブと呼ばれる、この気象体を用いる手段は、このカテゴリーに最も適した  
 方法である。